

昭和50年代・60年代

国民の9割が自分を中流階級だと考える「一億総中流」の意識が定着した時代。大学の受験方法を改変し、大学共通一次試験がスタートした。県内では、昭和51年に山形県誕生百年記念式が行われた。山形を舞台にした「おしん」が大ブームとなる。

児童生徒数の移り変わり

	小学校	中学校
昭和50年	101,529	58,779
昭和52年	100,795	54,603
昭和54年	104,569	49,489
昭和56年	106,652	50,364
昭和58年	107,830	50,914

山形県教育関係者名簿より



今より雪が多かった？



特別活動「もちつき」



米飯給食始まる



みんな緊張、授業参観



先生方の声をもとにつくられたく山形県学校図書展示会

図書展示会を開催することになったのは、昭和46年（1971）です。それ以前は、写真もない説明文だけのカタログを参考に、図書館図書の選定が行われていました。そのため、図書が納品されてから、字が小さいとか内容が難しすぎるなどがわかり、図書館担当の先生が大変苦勞される時代でした。先生方からの要望もあり、多くの本を実際に手にとって見ていただく機会を設けられないか、が検討されました。その結果、社員を東京の大手会社で長期研修させてノウハウを学び、まず山形市で展示会を開催しました。翌年からは県内5会場で実施し、はじめの頃は先生方を送迎するなどしてお越しいただきました。小中学校図書館部会からのご理解とご協力をいただき、幸い、多くの先生方から好評を得て、認知度も高まったのでした。その後、ラベルなどの基本装備をした図書を学校にお届けするようになりました。昭和50年代には軌道に乗り、現在は、県内4つの広い会場に1万冊以上の図書を展示して、IT機器も使いながら、図書選定のお手伝いをしています。